理論計算議論

三塚 岳(KEK) RHICf-II研究計画ミーティング 2021年7月7日、筑波大学



後藤さんからの依頼

RHICf-Iでの p+p-->pi0+X asymmetryがまずお願いしたいこ とですが、加えてRHICf-IIでは新たに、p+A-->pi0+Xと、 KOS、Lambdaの cross section およびasymmetry測定が目的 としてあります。 そちらについても議論したいので、準備できるものがあ ればお願いします。

RHICfでのp[↑]p→π⁰X測定: A_N(x_F, p_T)

RHICf at $\sqrt{s} = 510 \text{ GeV}$ z0.25 ∢ 0. Å $p^{\uparrow}+p \rightarrow \pi^{0}+X$ $p^{\uparrow}+p \rightarrow \pi^0+X$ at $\sqrt{s} = 510 \text{ GeV}$ (a) RHICf π⁰ 6<η /s=510 GeV 0.00<p_<0.07 GeV/c 6 < ŋ 0.2⊢ RHICf 0.07<p_<0.19 GeV/c 0.15 $0.25 < x_{r} < 0.34$ RHICf 0.19<p_<0.30 GeV/c $0.34 < x_{F} < 0.44$ 0.15 RHICf 0.50<p_<0.69 GeV/c $0.44 < x_{F} < 0.58$ PHENIX π⁰ 3.1<η<3.8 √s=62.4 GeV 0.1 $0.58 < x_{F} < 1.00$ E704 π⁰ √s=19.4 GeV 0.1 STAR π⁰ <η>=3.3 √s=200 GeV 0.05 0.05 $A_N/p_T \sim 0.25 \text{ GeV/c}$ 0 -0.05^L 0.2 0.4 0.6 0.8 0.2 0.3 0.5 0.6 0 01 0.4 0.7 0.8 p_(GeV/c) X_F 前方中性子A_Nとは符号が逆。 √sに依らず大体同じA_N/x_F (pT~1 GeV/cでsoft/hardが |A_N|/p_Tは前方中性子の約半分。 分かれるので偶然か?)

E704でのp[↑]p→π^{+/-}X測定: A_N(x_F)



E704 at √s = 19.4 GeV

- Charged πの情報は有益。
 Triple-reggeモデルに基づけば、
 - π+, π⁰ → N交換 and Δ交換
 - **-** π⁻ → Δ交換
- Charged πのA_Nを説明できればπ⁰も説明で きるはず。
- π+/-とπ⁰のp_T領域は同じ?

ISRおよびE350でのpp→πX測定: Ed³σ/dp³

- 断面積も重要(の割に太古の測定しかない)。
 - Inclusive測定のA_Nは様々なチャンネルの 個々のA_Nに断面積比を掛けたもの。 前方中性子は例外的にπ-exc dominant。 $\langle A_N \rangle = \frac{\sum_i A_{Ni} \sigma_i}{\sum_i \sigma_i}$
 - A_Nと断面積を両方再現して初めて計算の 正しさを保証。

E350 at $\sqrt{s} = 13 \text{ GeV}$ $\frac{d^2\sigma}{dt \, dE}$ $\left(\frac{\mu b}{GeV^3}\right)^{0.01}$

10

ISR at $\sqrt{s} = 45$ GeV





[[]Barone and Predazzi]

前方粒子を生成するdiagramはいわゆるTriple-regge diagram

$$A(12 \to 3X) \sim \sum_{s \to \infty} \sum_{i} g_{13}^{i}(t) g_{2X}^{i}(t) \eta_{i}(t) \left(\frac{s}{M^{2}}\right)^{\alpha_{i}(t)}$$
• g₁₃: p $\to \pi^{0}\mathcal{O}$ vertex (coupling)

交換できるtrajectory

を足し上げる

- •g_{2x}:p+i(j)→Xの断面積、つまり全断面積
- η: 交換するtrajectoryの位相
- α(t): trajectory~tの関数
- M²/s ~ 1 x_F

p[↑]p→πX計算: Regge trajectories

[Storrow, Phys. Rep. 103, 317]



古い論文だが大してアップデートはないと思われる。

p[↑]p→πX計算: 吸収効果 (ISI/FSI)

$$A_N = 2 \frac{\mathrm{Im} \, M_{\mathrm{flip}}^* M_{\mathrm{nonflip}}}{|M_{\mathrm{flip}}^*|^2 + |M_{\mathrm{nonflip}}^*|^2} \propto 2 \mathrm{Im} \, \eta^* \eta$$

- 生成粒子が有限の左右非対称を持つために は位相干渉(Im[ŋ_i(t)η_j(t)*] ≠ 0)が必要;
 - 異なる交換粒子同士の位相干渉
 - 始状態・終状態での散乱 (吸収効果) のいずれかが必要。
- 例) 前方中性子(Kopeliovich, PRD 84)の場合:
 - π-a₁交換間の位相干渉 → 寄与大
 - 吸収効果 → 寄与小





9 t=11255(GeWAC)

三塚岳

RHICf-II研究計画に+499%やがグ (7 July 2021)

 $t = -1.15 (GeV/c)^{2}$





Paper in preparation

● 昨夜遅くIm部の扱いにバグを見つけました。



その他の前方メソン:η? K⁰s?



- Triple-regge diagramで記述されるsoft部は
 - Coupling
 - Form factor
 - Trajectories

を生成メソン3に応じて変更すれば良い。

Hardな成分はpQCD MCで見積もる。

その他の前方バリオン:中性子? ∧?

[PHENIX, Phys. Rev. D 103, 032007]



∧の計算は難しそう。

p[↑]**A**→**π**⁰**X**: 断面積

[GM, Eur. Phys. J. C 75, 614]



|4



- RHICでのp[↑]+Au→n+X測定は低エネルギーp[↑]+γ散乱で説明可能。
- 低エネルギーp[†]+γ散乱ではpとmに大きな非対称が現れる。
- p+γ系の非対称をLorentz boostすれば p[↑]+Au系のπ⁰非対称が得られる。

[GM, Phys. Rev. C 95, 044908]





- p[↑]p→πXの断面積とA_NをRegge理論に基づき記述しようと勉強中。
 - 断面積とA_Nを両方同時に説明するのが重要。
 - Baryon reggeon交換+吸収効果で断面積もA_Nも説明できるのでは?
- Λ の計算には少々勉強が必要、 $p^{\uparrow}A \rightarrow \pi^{0}X OUPC$ 計算はすぐに出来る。
- RHICfのπ^o断面積測定はどうなった?Type-Iだけでも早めに欲しい。
- PHENIX ZDCの中性子測定はp_T分解能が粗い→RHICf-IIではλ_i不足?